

平成31年度使用中学校の教科用図書

研 究 資 料

平成30年7月

教科 特別の教科

種目 道徳

平成31年度使用中学校教科用図書研究報告書（特別の教科 道徳）

教科 特別の教科	種目 道徳			
発行者番号・略称		教科用図書番号		
2・東書		1年	2年	3年
		721	821	921

(1) 内容の特徴・表現

- ・道徳のオリエンテーションとして、「道徳の授業はこんな時間に」「話し合いの手引き」が示され、主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。
- ・教材の最後に、「考えてみよう！」として道徳的価値を深く考えたり、自己の生き方を考えたりできるような発問が示されている。
- ・「アクション」として、道徳的行為に関する体験的な学習ができるような学習活動が例示され、道徳的価値について深く考えるように工夫されている。
- ・「いじめのない世界へ」「いのちを考える」では、いじめについて連続して複数の時間を扱うようになっており、重点的な指導をどの学年も行うことができるよう工夫されている。
- ・「キャリア教育」「国際理解」など、現代的な課題に関わる教材が充実しており、自分がどのように生きていくべきかについて考えていくことができるような内容項目が工夫されている。
- ・「自分の学びをふり返ろう」では、一定のまとまりの中で自分自身を振り返り、自己評価をしながら主体的に学ぶ意欲を高めることができるようになってきている。
- ・巻末付録として、「みんなで意見を書こう」「心情円」があり、自分の考えを伝え合い、話し合う活動につながる工夫があり、他者理解の手立てとなるものと考えられる。

(2) 教材の構成・配列及び分量

- ・全体の分量が適切であり、学校行事や他教科等の学習内容、伝統的な行事等との関連に配慮して、教材がバランスよく配分されている。

(3) 使用上の便宜等

- ・生徒にとってわかりにくい用語については欄外に簡潔な解説が設けられていて、欄外につぶやきとして、自分の考えをメモできる欄が設けられている。
- ・教材を通して、考えさせるテーマを明確にすることで、何を考えるのかを分かりやすくさせる工夫がある。

(4) 総合所見

新学習指導要領に即した内容構成になっており、現代的な課題に関わる教材が充実し、身近な問題と結びつけながら、自分のこととして考えることができるよう様々な工夫がある。多様な学習活動として、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習に取り組む内容が示されている。生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、よりよく生きていくための考えを深める学習となるような創意工夫が随所になされている。

平成31年度使用中学校教科用図書研究報告書（特別の教科 道徳）

教科 特別の教科	種目 道徳			
発行者番号・略称		教科用図書番号		
11 ・ 学図		1年	2年	3年
		道徳722	道徳822	道徳922

(1) 内容の特徴・表現

- ・最初に「学級づくり」のページとして、楽しくつき合うきっかけを見つける活動が組み込まれており、人と関わる内容の学習ができるようになっている。
- ・「心の扉」では内容項目ごとに価値理解を深めていくことができるように工夫されているが、発問テーマによっては書くことが苦手な生徒への手立てが必要となってくる。
- ・「考えよう」「考えよう 意見交換」「見つめよう」という3つの活動がどの教材にも提示されており、毎時間の授業の流れを構成しやすい。
- ・各学期ごとに学びの記録を記入する欄があり自分の考えや友達の発言の振り返りが行いやすい。
- ・災害についてや東京オリンピックについてなど、現代的課題に関わる教材が充実している。
- ・「一年間の振り返り」が設けられており、自分自身の伸ばしたいところや変えたいところなどを記入させることで、自分と向き合うことができるようになっている。

(2) 教材の構成・配列及び分量

- ・時期にあった教材の配置で、学校行事に連動した授業を行いやすい。
- ・学校行事や他教科等の学習内容、伝統的な行事等との関連に配慮して、教材が配置されているが、いじめに関する内容が最後にあるため、もう少し早い時期にあった方が扱いやすいと思われる。
- ・各教材ごとの分量にばらつきがあり、多いものは見開き4ページになるため配慮が必要である。

(3) 使用上の便宜等

- ・イラストを大きく扱い、文字の大きさや書体、色使い等のレイアウトの工夫が見られる。
- ・文字が大きめに表記されており、見やすく工夫されているが、ルビがふられているところは文字の間隔が狭く少し読みづらく感じるように思われる。
- ・生徒にとってわかりにくい用語については欄外に簡潔な解説が設けられている。

(4) 総合所見

教材と「心の扉」により道徳的価値の理解が図られるように工夫されている。どの教材においても「学びに向かうために」の活動が3段階で提示されているため、授業の流れを構成しやすく、対話的な学びになるよう工夫されている。ロールプレイが多く取り入れられているが、活動によっては生徒にとって難しいと思われるものもある。

平成31年度使用中学校教科用図書研究報告書（特別の教科 道徳）

教科 特別の教科	種目 道徳			
発行者番号・略称		教科用図書番号		
17・教出		1年	2年	3年
		723	823	923

（1） 内容の特徴・表現

- ・教材の冒頭にねらい、テーマに関する問いが一問置かれており、導入に使うことができる。
- ・「やってみよう」では、役割演技や日常の体験を想起して話し合う活動を取り入れており、教材を通して考えたことをさらに深めることができる。
- ・自分の考えや感じたことなどを記入することができるページが設けてある。
- ・各教材の最後に「学びの道しるべ」として設問が3つある。1は教材の内容に関すること、2は自分について、3はねらいを考えさせるものとなっていて、授業の流れが作りやすくなっている。
- ・相反する立場の意見を取り上げ、両方の立場で考えさせる教材や、結末がついておらず、主人公が葛藤している場面で終わる教材もあり、いろいろな立場から考えさせる工夫がみられる。
- ・「いじりかいじめか」、「インターネット上のルールやマナー」などいじめや差別、情報とのつきあい方など、現代的な課題についての教材が充実している。
- ・体験的な学習に取り組めるようになっているが、活動のみに終わらないような配慮や工夫が必要である。

（2） 教材の構成・配列及び分量

- ・よく知られた読み物教材だけでなく、生徒作文、新聞記事、漫画などいろいろな素材が取り上げられており、目先を変えて興味関心を持たせやすくするような工夫がみられる。
- ・「合唱コンクール」の教材は、3学年の続きものであり、発達段階に応じたものになっている。

（3） 使用上の便宜等

- ・B5版で持ちやすく、コンパクトである。
- ・美しい写真が多く、生徒の興味を引きやすい。

（4） 総合所見

最初に、道徳では何を学ぶか、どのように学習したらよいかのかが分かりやすくまとめられ、学びの手引きになっている。教材は、読み物から生徒作文、新聞記事、漫画など様々な素材のものがあり、興味・関心を持たせやすいものが選ばれている。「学びの道しるべ」として学習の流れが示されており、授業の展開がわかりやすい。役割演技を行う場面もあるが、活動すること自体が目的になってしまわないよう配慮が必要である。

平成31年度使用中学校教科用図書研究報告書（特別の教科 道徳）

教科 特別の教科	種目 道徳			
発行者番号・略称		教科用図書番号		
232・廣あかつき		1年	2年	3年
		728	828	928

(1) 内容の特徴・表現

- ・文章の終わりに「学習の手がかり」という教材の内容に沿った3つの発問がある。さらに「考えを広める・深める」という設問があり、内容項目のねらいにせまるものになっている。何をどのように考えさせたらよいか分かりやすいが、授業の展開が決まってしまう、授業を工夫しにくい面もあるように思われる。
- ・道徳ノートがついており、右ページに内容項目ごとの説明・資料があり、左に書き込むようになっている。しかしながら、ノートの分量も多いため1時間の中で、すべてを考えたり記入したりするのは難しいと思われる。
- ・学年ごとに価値項目に関する質問が少しずつ違い、1年生は自分について、2年生では周りのことにも目を向ける、3年生では地域や社会にも目を向けさせるなど、発達段階が考慮されている。
- ・学習の記録・話し合い活動の記録の欄もあるが、教材ページから離れた場所にあるため、使い方に工夫が必要である。

(2) 教材の構成・配列及び分量

- ・各学年とも、よく知られた読み物教材が入っている。各学年35教材が入っている。読み物教材が多い。
- ・1年生はフォントが大きく、1つの教材のページ数も多い。1年生には3ページ程度のものが適当かと思われる。ただ、全体に字が多い印象があるため、読み込むのに時間がかかる。

(3) 使用上の便宜等

- ・見開きのどこかに写真やイラストがあり、見やすい。イラストは中学生を題材にしたものは現代風のイラストだが、他は水彩画のように味わいがあるものが多い。

(4) 総合所見

最初に道徳の時間とは何をする時間かがまとめられている。心を打つ読み物が多く、イラストや写真が多く入っているが、全体的に読み物資料の分量が多いため、読解が苦手な生徒への配慮が必要となってくる。新学習指導要領に即して、考え、話し合うための学習の手がかりが教材ごとに示されており、授業の展開はしやすいが、流れが限定してしまう可能性があるため、多様な活動をするための工夫が必要となってくる。

平成31年度使用中学校教科用図書研究報告書（特別の教科 道徳）

教科 特別の教科	種目 道徳			
発行者番号・略称		教科用図書番号		
233・日科		1年	2年	3年
		730	830	930

(1) 内容の特徴・表現

- ・道徳科の学習の導入として、巻頭に「道徳科って何を学ぶの？」のページが設定されており、道徳授業のガイダンスが行いやすくなっている。
- ・教材の長さは長短様々で、話の終わり方をオープンエンドにすることで、「この後どうするべきか」を考えさせるような教材も多く設定されている。道徳的価値の実現の困難さを理解することはできるが、よりよい生き方を考えさせるには指導の工夫が更に必要である。
- ・教材ごとの目標やテーマの提示は行われていないので、授業者がねらいをもって教材を選び、授業していくことが求められる。
- ・「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーが設けられており、構造化された授業が展開できる。
- ・教科書に直接書き込む教材はあるが、すべての教材で、その授業の気づきや振り返りを記入する欄があるわけではないので、授業者の工夫が必要である。

(2) 教材の構成・配列及び分量

- ・学習指導要領の内容項目に沿って、A～Dの順に配列されており、年間指導計画を授業者が考えていく必要がある。
- ・コラム欄には、教材と直接的な関係がないものもあるので、教材との関係を意識しながら授業者が利用していくことを工夫する必要がある。

(3) 使用上の便宜等

- ・各ページの挿絵が大きく、写真が多いので、生徒の興味を引きやすい。
- ・生徒にとってわかりにくい用語については下段に簡潔な解説が設けられている。
- ・見開きの途中で始まる教材が多い。
- ・振り返りを一年単位で行うようになっているので、必要に応じて学期などの短い単位での振り返りを用意する必要がある。

(4) 総合所見

教科書の中に記述スペースがあまり設けられていないので、書く活動よりも話し合う活動を重視した教科書であると思われる。教材ごとのテーマや身につけたい力が明示されていないので、授業者がねらいをはっきりともつことが必要になる。自由度の高い教科書であると同時に、授業者にとっては道徳的価値の深化を目指した事前の計画が必要であり、使用難易度の高い教科書でもあると考えられる。